

三年元気組（3年）

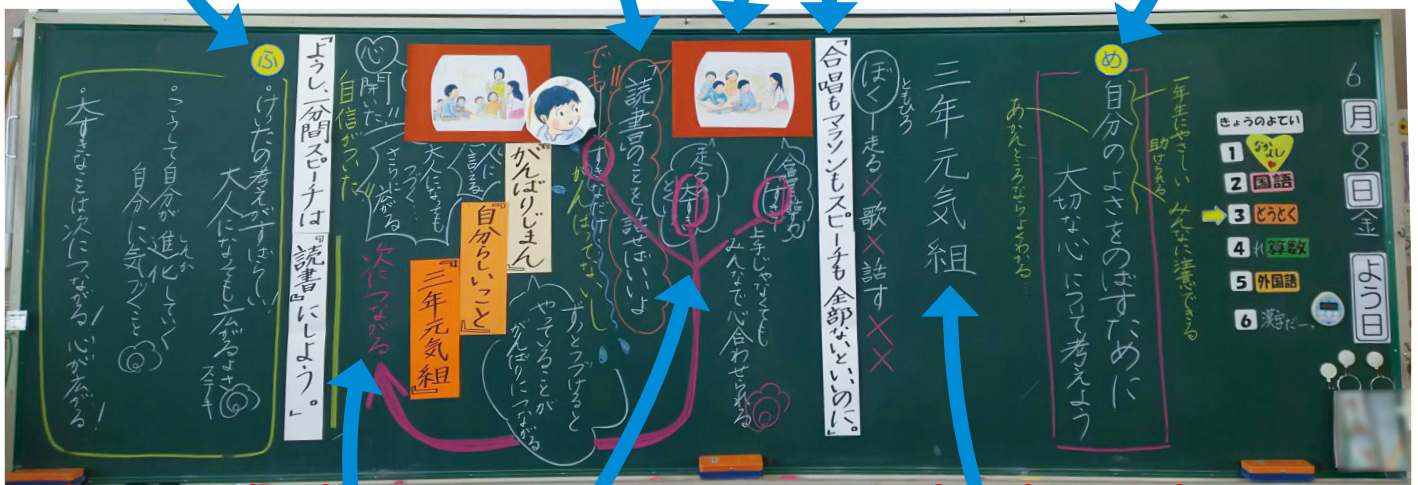
板書の工夫

あらかじめ、重要な場面の挿絵や言葉（主人公の変容がわかるキーワード）を準備しておく。「合唱も……」の紙と、「ようし、一分間スピーチは……」の紙を貼り、「なぜ、ともひろくんは変わったのだろう」と、問いかける。

「めあて」「振り返り」など、毎授業で使う学習用語は、あらかじめ記号（アイコン）として提示できるものを用意するとよい。

大事な場面は、目を引くよう、チョークの色や囲みの形を変えたり、アイコンを書いたりして工夫する。

「振り返り」のアイコン。



教材名の提示。

子どもたちから出てきたキーワードとなる言葉が、何につながるのかがわかるように、矢印などを使って、子どもの思考をサポートする。

板書の流れ

- 1 「めあて」は初めに提示する。教科書のとびき「考えよう」を参考に、クラスの子どもたちに合った言葉にして示す。導入で「めあて」を活用し、「みんなの自分のよさって何かな」と投げかけ、返ってきた反応を書き出す。【3～4分】
- 2 「合唱もマラソンもスピーチも、全部ないといいのに。」と思っていた主人公が、「ようし、一分間スピーチは『読書』にしよう。」と思うようになった考えの変容を、「なぜ、ともひろくんは変わったのだろう」と問いかけ、話し合わせるようにする。キーワードにもなった「すき」が、次につながる原動力となることに気づかせる。【29分】
- 3 本時の振り返り。振り返りの前には、「めあて」を再確認し、「今日は、このことを考えたんだよ」ということを子どもにしっかりと意識させる。ワークシートに記入する時間を子どもたちと相談し（だいたい7～8分）、机間指導をしながら、意図的指名をする子を決めておく。この振り返りは、クラスが違えば、まったく異なる中身となるものであることを心に留めておく。交流の中で出る子どもたちの発言は、その思いをゆがめないように、キーワードで板書する。子どもたちからは、自分のこれから先の生き方へとつながる考えや、「自分のいいところは、自分では見つけにくいときもある。だからこそ、周りの人のよさを見つけたら伝えたい」など、他者に対する姿勢についての意見が出るのが予想される。交流の時間は必ず確保し、考えが深められるようにしたい。【13分】